

母校の校歌に馳せる想い

春季球技大会の開会式では、コロナ禍の影響で今まで行われていなかった全校生徒での校歌の斉唱が行われる。今号では、校歌の歴史や歌うへの生徒の反応をお届けする。(編集部共同取材)

3年ぶりの校歌斉唱

久々の校歌斉唱が決定

学校でのマスクの着用が4月1日(土)から緩和され、5月8日(月)から新型コロナウイルスの分類が季節型インフルエンザの分類と同じく5類に引き下げられた。これを受けて阿部一郎校長先生は始業式で、春季球技大会で校歌を歌いたいと発言した。

先生に聞くと、春季球技大会の開会式では校歌を歌う予定になっているそうだ。「校歌は愛校心のきっかけ」全校生徒で校歌を歌えることについて阿部一郎校長先生にインタビューした。阿部校長先生は、校歌は「生徒が母校を大切にすることを育むもの」と話す。その上で「みなさんが卒業して時



校門前には校歌の歌碑がひっそりと佇んでいる

学校とともに歩んだ校歌の歴史

錦城の校歌が作られたのは、今から57年前の1966年。校歌を初めて合唱したのは開校してから3年目の1回生の卒業式だった。校歌の作詞については実は最初に生徒へ募集を募ったそうだ。そのうえで当時教頭を務めていた中須賀哲朗先生を中心に、生徒の意見から最終的に学校全体で作詞が行われた。

1・2年生が卒業生たち(先)進)を称え、3番で全員(II)窓が一緒になって、学校や自分たちの未来を歌い上げていく。作曲は、当時神田の錦城学園高校で音楽の教員を務めており、東京音楽学校(現東京藝術大学)の出身であった間紀徹先生に依頼したという。よく多摩川の川原を歩いて作曲されるが多かったという

間紀先生は「校歌・応援歌などは、昔は1つの学校にたくさんあるのがありました。その学校の歌を皆で歌うことが、



「あなたは どう考えますか？」

現在校長を務めている阿部一郎先生は「生徒一人ひとりに歌詞(対する意見がある)と練習している校歌を今回の球技大会で斉唱して、その成果を感じ取ってみたい」と話した。この機会に校歌の歌詞を一人ひとりが認識し、先輩方と合わせて歌声を響かせたいと話した。先輩方と合わせて歌声を響かせたいと話した。先輩方と合わせて歌声を響かせたいと話した。

分では強弱記号のクレッシェンドがついているため、意識してほしいとのことだ。また、最初の言葉の子音の発音をはっきりさせることも校歌をよく聞きかかると大切だ。例えば「多摩川」のTの音や「ひたむきに学べかし」のHの音などだ。最後に「歌詞中にもあるように、卒業後も母校錦城の名を讃えられるような楽しい高校生活を送ってほしい」とメッセージを送った。

このように、今回校歌を斉唱することに賛成意見も反対意見も聞かれたことについて大浦優太さん(3L)は「校歌を斉唱するにあたって、社会情勢を踏まえながら、学校側として賛成派と反対派双方の意見を汲み取っていくことが大切だと思います」と指摘し、全員が納得した状態で楽しく校歌を斉唱できるようにすることを願った。

全校で校歌を歌うにあたって、音楽科の新野先生に話を聞いた。「学校の象徴ともいえる校歌を全校で歌えることは素晴らしいことであり、とても嬉しいですね」と話した。



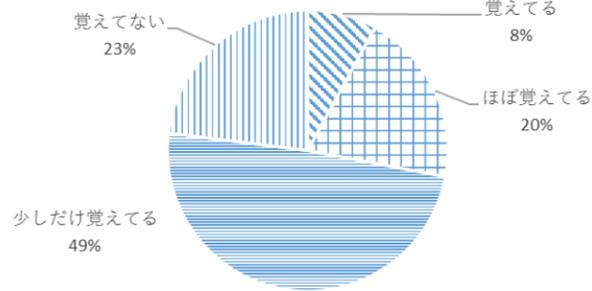
校歌について解説する

分では強弱記号のクレッシェンドがついているため、意識してほしいとのことだ。また、最初の言葉の子音の発音をはっきりさせることも校歌をよく聞きかかると大切だ。例えば「多摩川」のTの音や「ひたむきに学べかし」のHの音などだ。最後に「歌詞中にもあるように、卒業後も母校錦城の名を讃えられるような楽しい高校生活を送ってほしい」とメッセージを送った。

このように、今回校歌を斉唱することに賛成意見も反対意見も聞かれたことについて大浦優太さん(3L)は「校歌を斉唱するにあたって、社会情勢を踏まえながら、学校側として賛成派と反対派双方の意見を汲み取っていくことが大切だと思います」と指摘し、全員が納得した状態で楽しく校歌を斉唱できるようにすることを願った。

あなたは校歌覚えてる？

あなたは校歌を覚えていますか？



「うろ覚え」が7割を占める結果に

2020年から新型コロナウイルスの影響で学校生活に制限が設けられてきた。校歌斉唱が出来なくなったこともその一つであった。しかし、5月になって新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、今月末に開催される春季球技大会で校歌を歌うことが決まった。そこで今回、編集部では現在どのくらい生徒が校歌を覚えてるのかという調査を行った。アンケートの結果によると、校歌を1番から3番まで完璧に歌いきることが出来る生徒は、アンケートに回答してくれた生徒の10%にも達していない。

切磋琢磨し高め合う技術

ソフトボール部中高合同練習実施



力いっぱいスイング!

4月22日(土)に錦城高校ソフトボール部と小金井市立南中学校ソフトボール部の合同練習が行われた。錦城高校ソフトボール部と南中学校ソフトボール部は去年の冬に練習試合をしていたようで、その縁もあり今回の合同練習が行われることになったようだ。

南中学校は日頃の活動ではノックやフリーバッティングをしているようで、南中学校の3年生4人に、合同練習で楽しみなことを聞くと「バッティング練習と試合形式の練習がとても楽しみです」と話してくれた。

ソフトボール部部長の鈴木花菜さん(3H)に合同練習の感想を聞くと中学生でも高校生に劣らない技術と実力を持っていて感心したと話してくれた。鈴木さんはインタビュー後も練習に向けて「私たちは部員が少なく実戦形式での練習ができないので、今回の合同練習で行う試合形式の練習を存分に生かしたいです」と意気込んだ。

将棋部全国出場へ
5月3日(水)、4日(木)に都立大泉高校にて全国高校将棋選手権東京大会地区予選が行われた。錦城高校将棋部は、団体戦では女子優勝、男子4位入賞という好成績を残した。男子団体の入賞は錦城史上初だという。



快拳のバトンを繋いでいく

個人戦においても、男子個人戦選手権にて、水谷祐太さん(3C)が準優勝した。女子団体戦優勝について大將を務めた渡辺千紗さん(2J)は、全国大会は4年連続になるので先輩たちからのバトンをつなげることができてよかったと話した。また男子入賞に際しても、同じ将棋部として誇りに思うと語った。

クラブ代表者による予算会議開催

5月11日(木)に予算会議が行われました。

各部活の部長や委員会の委員長が、昨年度の予算を超過した団体を承認するかについて話しました。1時間半の議論の末、各団体の決算案が決定しました。

5月17日(水)に行われる生徒総会において、全校生徒で各部活動や委員会の予算について話し合います。皆さんもこの機会に予算について考えてみましょう!

波乱の予算会議
▽4月29日 5月3日
関東高等学校空手道協会
女子団体形 第4位

陸上部全国7位入賞
4月15日(土)に石川県輪島市で第62回全日本競歩輪島大会が行われ、女子U20の10km競歩部門で早川愛花さん(2L)が7位入賞を果たした。全国7位という快挙につ